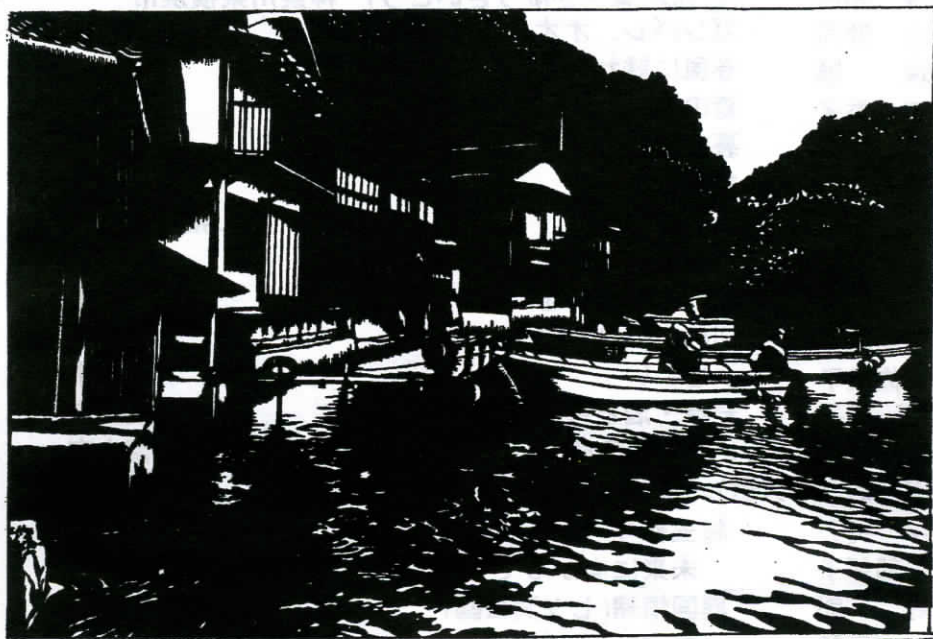


第26回全国切り絵コンクール

入選作品展 目録 [前期]



舟屋の午後～伊根の舟屋 金谷 真佐美 富山県小矢部市

平成29年8月2日(水)～9月25日(月)

群馬県利根郡川場村谷地〔ふじやまの杜^{もり}〕

主催日本切り絵百景館

電話0278～52～2022

FAX0278～52～2181

開館時間 午前0時～午後4時 休館日～毎週火曜日

第26回全国切り絵コンクール入選作品

前期

神奈川県

茨城県

富山県

東京都 在住の作者の作品

飯塚 邦彦	滝(九寨溝～きゅうさいこう)	神奈川県横浜市
立木 健司	ガンバレ、オオイチョウ	横浜市
石塚 順	春風に誘われて	横浜市
渡辺 秀子	森の道	横須賀市
片山 恭子	裏木戸のある家	横須賀市
宮内 雅而	弁財天	相模原市
新井 豊一	老舗の蔵元	富山県氷見市
豊田 征一	いにしえの茶屋	高岡市
前田 律枝	シドニー湾の思い出	小矢部市
奈良岡和美	初めてのサイクリング	高岡市
中村佐代子	よさこい	高岡市
森田 洋子	奇祭・酒と祭り	小矢部市
藤井 寛治	せせらぎの庭	富山市
広田 嵩 (準入選)	深緑の中で	南砺市
田神 英夫	杉玉作り	茨城県高萩市
小田部邦子	未来に向かって	城里町
星野 三郎	異国情緒(七ツ洞公園)	ひたちなか市
坏 道和	修験(しゅげん)の道	水戸市
久保田 孝	郷(さと)の証人	つくば市
下田 順子	孫と銀(ぎんなん)ひろい	ひたちなか市
佐川 正澄	笠森観音堂	ひたちなか市
原嶋 ミ子	大宮公園	東京都福生市
佐々木静子	ねえ！これ見てえ～ツ！	東大和市
太田恵美子	祈り	、新宿区
高橋 勇	樺細工職人	武蔵村山市
荒沢 利子	はやく行こう	武蔵村山市
仲野 正子	あきちやんとさっちゃん	羽村市
田村 耕治	元寇	町田市
谷 正幸	ゆれる揺れる！コワイ！	神奈川県横浜市
滑川 秀子	和のテイスト	茨城県 小美玉市
渡辺 妥夫	樹林の続く参道	ひたちなか市

第26回全国切り絵コンクール入賞作品

大賞	岡田 尚美	ひたすら じーっと	神奈川県横浜市
準賞	金谷真佐美	舟屋の午後—伊根の船屋	富山県小矢部市
優秀賞	佐藤 和子	初冬	神奈川県横浜市
優秀賞	三宅亮子	おねえちゃん、まってー!	北海道函館市
優秀賞	小山静子	清風・風の道	埼玉県桶川市
優秀賞	滑川秀子	江戸村散策	茨城県小美玉市
優秀賞	吉田慶助	福島大神宮の祭礼行列	北海道北斗市
優秀賞	黒岩功一	岩櫃城の砦	群馬県渋川市

二輝展〔29年度〕展示作品

戸田 幸子	神楽の顔	埼玉県小川町
中郡 紅葉	大湯(長野県野沢温泉)	群馬県藤岡市
林 君江	倉賀野宿散策	群馬県高崎市
松本 正一	木曾路の旅	群馬県高崎市
金井 勲	秋の陽の午後	新潟県燕市
加藤 恵美子	旧栃木県庁	茨城県ぴたちなか市
船木 逸子	緑の嶋から	北海道函館市
水谷 勇	富嶽 秋景	富山県高岡市
有馬 富士夫	ブルーウイングもじ大	埼玉県北本市
山崎 育子	船溜まり(天竜川河口)	東京都瑞穂町
田中 孝子	会津の城をたずねて	東京都瑞穂町
鈴木 正雄	雨引観音仁王門(茨城)	茨城県日立市
中山 光子	日光 二荒山神社	群馬県伊勢崎市
江田 雅子	静 寂	岡山県津山市
川条 秀和	停 泊	兵庫県西宮市
河江 文比呂	赤い服の女	東京都大田区
加藤 三郎	石 塔	埼玉県朝霞市
森 愛子	大森の中のゆり	東京都武蔵村山市
畑 徳江	ママ、おさかなさん	埼玉県上尾市
須貝 京子	荒砥城(アラト城)	埼玉県上尾市
名取 誠一郎	緑の渓谷	神奈川県横浜市
梗井 敏彦	ぶながやが暮らす森	愛知県軍海市
平 章弘	平林寺の鐘楼	東京都小平市
斉藤千鶴子	落ち葉を急ぐ木々	富山県富山市
後藤 伸行	ジョージ・イン(ロンドン)	群馬県川場村

全国切り絵芸術家協会の出発をめざして

当面の課題

切り絵は昭和30年代に爆発的ブームがおこり、全国に国民的人気をまきおこしました。滝平二郎さんの筑波山麓の子供たちの風俗を描いた切り絵や、宮田雅之さんの官能的な女性の姿を描いた構図の巧みさとシャープな切り口は、日本人の感性によくマッチし、広く共感を呼びました。

切り絵を学び始める人も多くなり、紙を素材とした手軽さと、この時代に開発されたカッターやビニールの普及も切り絵を学ぶ人の層を厚くし、ひろめました。

切り絵を学び始めた人の動機はいろいろあると思いますが、①切り絵を絵画の一分野として考えて、表現の為に研究を深めるか、②切りこむことの楽しみに終始するか、に大別されますが、どちらの道

を求めてゆくかによって勉強の方法は変わります。全国切り絵同好会は、毎年全国切り絵コンクールを開催いたしておりますが、切り絵は絵画の一分野であると主張し、出品作品は、オリジナル作品であることを求めています。

初心者の勉強は1片の下絵の切りこみから始めますが、やがて自分で下絵けるようになると、自分の作品、自分の表現力を知りたくなります。全国切り絵コンクールは自分を知るもつとも大切な機能をはたしております。このコンクールによって自分の才能を知り、開花された方がおられます。また競うあうことにより応

募作品の水準は大変向上いたしました。

平成10年になると、同好会の会員の申から国際絵画公募展で歴史と伝統のあるフランス芸術家協会のル・サロン展に出品入選を果たす人や、国内の会画の公募展に出品・入選を果たす方が出てまいりましたので、大型の20号～50号の作品のコンクールとして切り絵大河コンクールを実施することに致しました。

切り絵大河コンクールの作品は大型なるがゆえに、発案から完成に至るエネルギーは容易ではありません。また見ごたえは三々のサイズを主流とした全国切り絵コンクールの作品群より迫力があります。平成30年は平成の終わりとなり、新年号に変わることが予想されます。変革の年を記念して全国切り絵芸術家協会を結成することになりました。

この協会に切り絵大河コンクールの5回入選者を準協会員に、6回入選者を正協会員に推薦することになりました。

明年はこの全国切り絵芸術家協会の作品展を展開するとともに、作品集の発行を企画いたします。

27回の全国切り絵コンクールと切り絵大河コンクールの成果が見事に結実する

ことを記念し、切り絵の普及と伝承のため、力あわせてゆくことを誓いたいと願うものであります。

全国切り絵同好会々長 後藤 伸行

日本切り絵百景館々長